

分科会テーマ最終案の解説

大きな枠組み

どんな環境にすべきか(したいか)を考えていくと、そのためには社会(人)がどうあるべきかにたどり着きます。それらは環境の各分科会で共通に考えるべき課題になってきます。環境の視点を頭に入れながら社会(人)がどうあるべきかを考える分科会が必要と考えました。

結果として、同じことを考える部分も出てくると思われそうですが、違った視点で重層的に別々の分科会が考えることにより、内容に厚みが出てくると考えています。

水 分科会

水環境。水に関連することすべてを考える分科会です。水環境のあり方、人やまちとの関係性、豊かな水環境を守るための方策などを考えます。

森林の保全も水環境を守るために重要な要素ですが、具体的な検討は「緑」分科会の範疇とします。

キーワード

河川、ため池、地下水、湧水、水循環、水辺環境、親水、護岸、水質、水量、魚、水生動植物、上水・飲み水、下水・排水、雨水地下浸透型都市、雨水利用、川の活用、井戸水...

緑 分科会

東部丘陵の緑から市街地の緑まで。緑や樹林地に関連することを考える分科会です。単なるありのままの樹林地の保全だけでなく、人が活用してきた二次的な樹林地のあり方、現代的な活かし方、ふれあい方について考えます。

合わせて、生物の多くは緑・樹林地が育んでいることから、生物の生息・生育環境=生態系としての緑のあり方についても考えます。

緑の範疇として、樹木だけでなく、草花も対象として、その一環として農地も緑として、その環境保全機能を考慮した保全のあり方について考えます(但し、農業経営については、「コミュニティ」分科会が中心となって考えます)。

キーワード

東部丘陵、身近な里山的樹林、市街地の緑化(公園、道路、家庭・事業所の敷地)、竹林、農地、草原、里山保全活動、動植物、希少種、生態系の保全、開発アセス...

まち 分科会

市街地・集落に住む人にとっての都市的な「まち」を中心とした生活環境・快適環境について考える分科会です。

生活環境を阻害する負の側面としての公害的要素(水質汚濁については、「水」分科会)、およびまちにおける生活環境を豊かにする正の側面としての快適環境の創造を考えます。

キーワード

大気汚染、騒音・振動、悪臭、有害化学物質、ごみの散乱、不法投棄、フン害、まちなみ景観、まちかどの潤いの場、歴史・文化的な薫り、道路・自転車道・歩道などの快適性、公共交通などによる移動の利便性...

ライフスタイル 分科会

地球環境の保全を考えたとき、日進市（市民）としてできる取り組みは、突き詰めていくと個人のライフスタイルや企業の事業活動に、いかに環境配慮を組み込んでいくかにつきると思われ、そのことを中心に考える分科会です。

この中には、ごみ問題も含まれますが、昨年度、環境課の「市民がつくるごみ処理基本計画策定事業」の中でかなりの検討が行われており、基本的にそれをベースに検討することになると思われます。

『環境』の水、緑、まちについて、ライフスタイルの切り口・視点から検討を加えます。

キーワード

ごみの減量、リサイクル、生ごみの循環、グリーンコンシューマー、省エネルギー、省資源、自然エネルギーの普及、地球温暖化対策、オゾン層保護、市民や事業者の環境配慮誘引手法としての環境税、大学、市役所における環境配慮...

コミュニティ 分科会

地域の環境まちづくりや持続可能な発展を考えた場合、地域における地区的及びテーマ的なコミュニティの果たす役割はますます大きくなると思われます。地区ごとに自律的に環境まちづくりを考えたコミュニティプランの策定に向けた取り組み、地域内で貨幣や資源が循環して成り立つコミュニティビジネス、その一環としての農業やNPO活動などについて、検討する分科会です。

『環境』の水、緑、まち及び地球環境について、コミュニティの切り口・視点から検討を加えます。

キーワード

区、自治会、子供会、家庭教育推進協議会などの地縁コミュニティ、NGO、NPO、ボランティアなどのテーマコミュニティ、コミュニティビジネス、地域内循環、地域農業の継続、地域別コミュニティプラン、近隣都市・他都市との交流...

遊びと学び 分科会

ライフスタイルの変革や事業活動の見直し、コミュニティの活性化のためには、遊びと学びを通して、気づきから行動につなげていくプロセスが重要です。

実際の環境基本計画づくりにおける必要な受発信を通じて、遊びと学びについて考えていきます。

キーワード

情報の受発信、イベント交流、無関心層へのPR・啓発、環境学習・環境教育、計画づくりのPR企画、講座企画、イベント企画、子どもの遊び環境、様々な市民参加の機会...